

WebEdge 3.9J インストール・ガイド

マニュアル・バージョン3.9

2017年12月

目次

1. WebEdge 3.9 のバックアップ	1
2. WebEdge 3.9 のインストール	1
3. WebEdge と Post.Office の連携について	6
3.1 Post.Office との連携	6
3.2 連携方法	6
3.2.1. Post.Office 側の設定	6
3.2.2. WebEdge 側の設定	7
4. WebEdge のWebインターフェース	8
4.1 管理者インターフェースへのアクセス方法	8
4.2 ユーザインターフェースへのアクセス方法	8
5. WebEdge のサーバの起動と停止	8
5.1 起動方法	8
5.2 停止方法	8
6. WebEdge サーバをアンインストールする方	8

1. WebEdge 3.9 のバックアップ

WebEdge のバックアップは、WebEdge がインストールされているディレクトリ（WebEdge ディレクトリ）をバックアップコピーします。

！ ご注意！

アップデートインストールの場合は、必ずバックアップを行ってください。WebEdge インストーラは、アップデートインストールでも既存の設定情報、テンプレート情報の有無に関係なく上書きしてしまいます。（コンフィグレーションファイル、カスタマイズされたテンプレートファイルが削除されてしまいます）

なお、WebEdge の利用者が設定していた次の情報については、アップデートインストールの場合でもデータは引き継がれます。

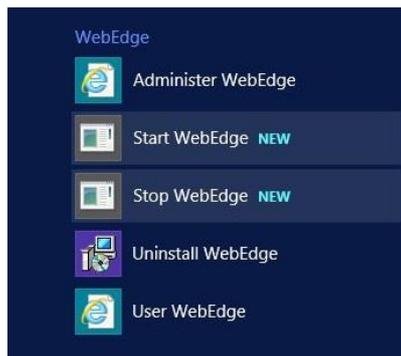
- ・ アドレス帳
- ・ オプション設定情報

2. WebEdge3.9 のインストール

WebEdge 3.9 のインストール手順を以下に示します。

1. WebEdge の停止（アップデートインストールの場合）

アップデートインストールを開始する前に、動作中のWebEdge システムを停止する必要があります。[スタート]メニューの [WebEdge] から [Stop WebEdge] を選択してください。



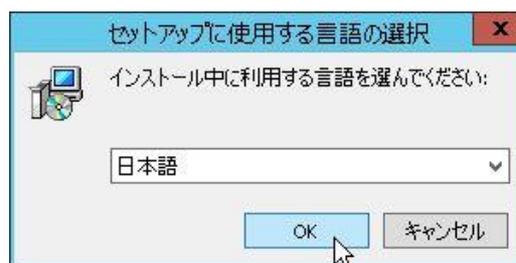
WebEdge の停止後、WebEdge ディレクトリのバックアップを行います。

2. インストーラの起動

「Administrator」で Windows にログイン後、インストーラを起動します。インストーラ・ファイルの「webedge39x-yyyymmdd-hhmm.exe」をダブルクリックしてください。

3. 言語の選択

“言語の選択”画面が表示されます。“OK” ボタンをクリックしてください。



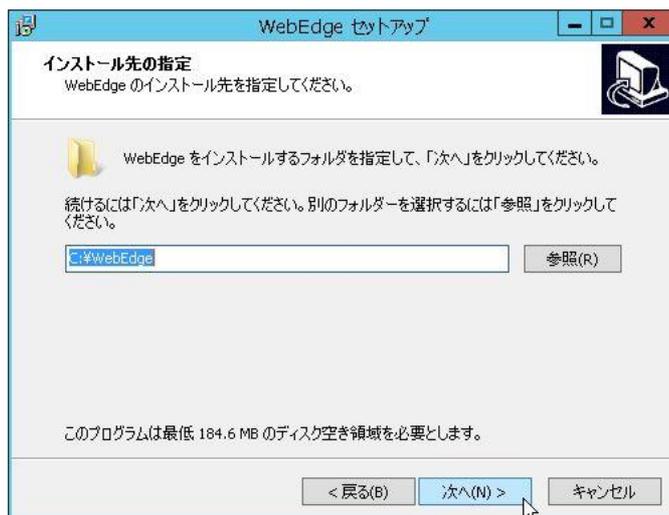
4. 使用許諾契約書の同意

“使用許諾契約書の同意”画面が表示されます。「同意する」を選択して、“次へ”ボタンをクリックしてください。



5. インストール先の指定

WebEdge をインストールするフォルダを設定します。WebEdge のインストール先フォルダ (WebEdge ディレクトリ) がデフォルトの設定であれば、“次へ”ボタンをクリックしてください。



6. ポート番号/ホスト名設定画面

WebEdge のサーバポート番号 (Web Server Port) および管理者ポート番号 (Administrator Port) を設定します。

「ホスト」の箇所にはF.Q.D.N (Fully Qualified Domain Name : ホスト名+ドメイン名 例 : server.domain.co.jp) の形式で、WebEdge を稼動するホスト名を設定し、“次へ” ボタンをクリックしてください。

サーバ情報
ポート番号とホスト名を設定してください。

WebEdgeのポート番号とホスト名を指定して、「次へ」をクリックしてください。

ウェブサーバポート番号
80

管理者ポート番号
8080

ホスト
potest.opentech.co.jp

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

7. 管理者パスワード設定画面

管理用のパスワードを設定します。パスワードを入力後、“次へ” ボタンをクリックしてください。

管理者情報
管理者パスワード

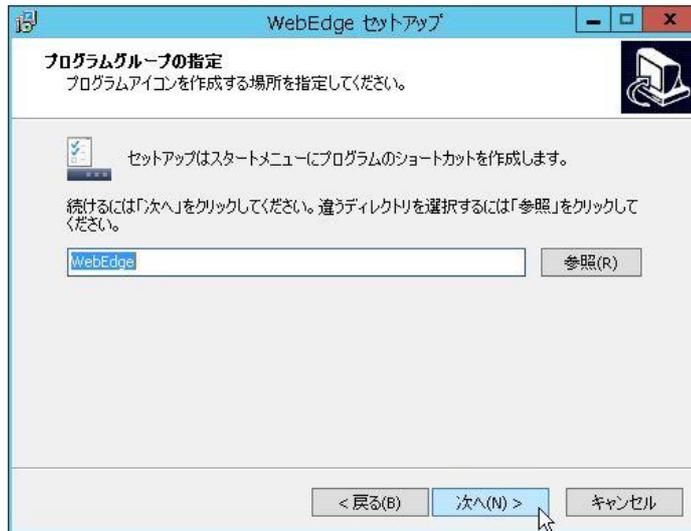
パスワード
.....

パスワードの確認
.....

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

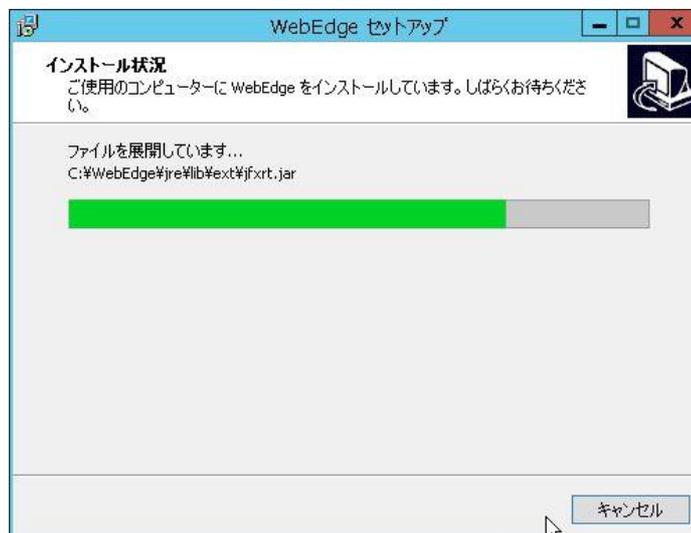
8. プログラムグループの指定

プログラムアイコンを作成する場所を指定します。デフォルトの設定でよければ、“次へ” ボタンをクリックしてください。



9. インストール準備完了画面

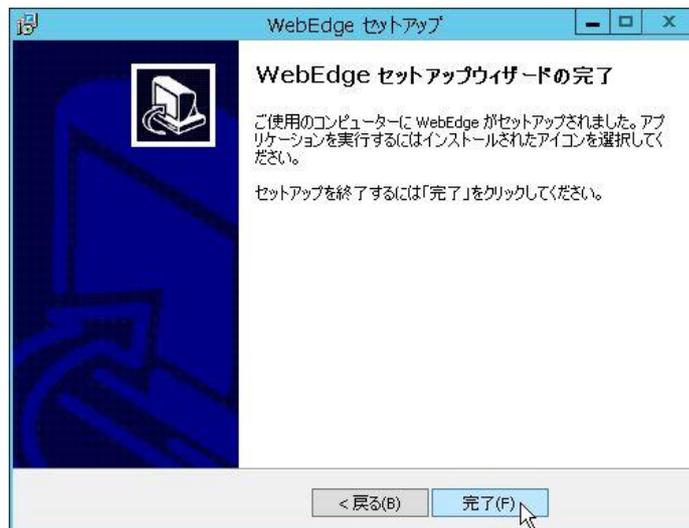
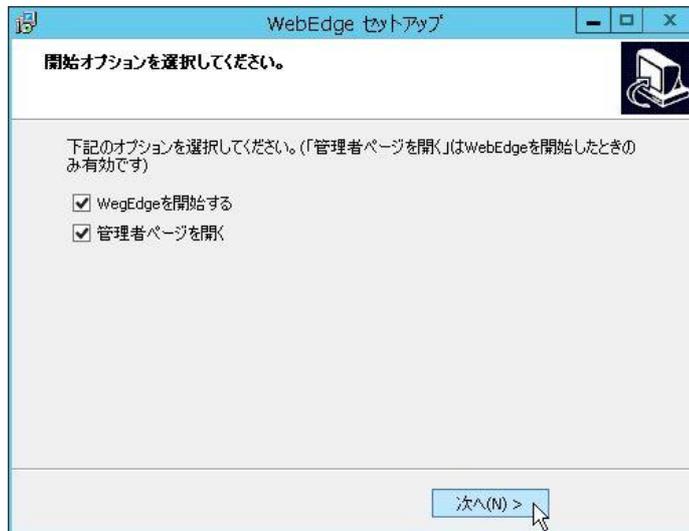
設定された情報を確認後、“インストール” ボタンをクリックしてください。インストールが開始されます。



10. セットアップウィザードの完了

インストールが正常に終了しました。“次へ” ボタンをクリックしてください。

(「WebEdgeを開始する」、「管理者ページを開く」のチェックボックスはそのままで終了させます。WebEdgeが正常に起動しているか確認できます)



11. 古い WebEdge をアップデートインストールされた場合 (mobility.cfg ファイル)

現在の WebEdge ディレクトリ (デフォルトでは C:\¥WebEdge) 下の config_mdn ディレクトリにある「mobility.cfg」ファイル中の次の項目を、バックアップした WebEdge ディレクトリ下の config_mdn ディレクトリにある「mobility.cfg」の内容と比較します。(mobility.cfg ファイルは WebEdge のコンフィグレーションファイルになります)

```
MSG_STORE_SERV
ER SMTPHOST
MSG_STORE_PROT
```

もし異なっていた場合は、エディタ等を利用して、バックアップされた「mobility.cfg」の項目の内容を、現在の WebEdge ディレクトリ下にある「mobility.cfg」ファイルの該当項目に書き写します。

この作業を行う前に WebEdge が稼働している場合は、再度 WebEdge を停止させてください。

その他の設定値につきましては、お手数ではございますが WebEdge を起動後に管理者 Web インタフェース画面にて、再度設定をやり直してください。

3. WebEdge と Post.Office の連携について

3.1 Post.Office との連携

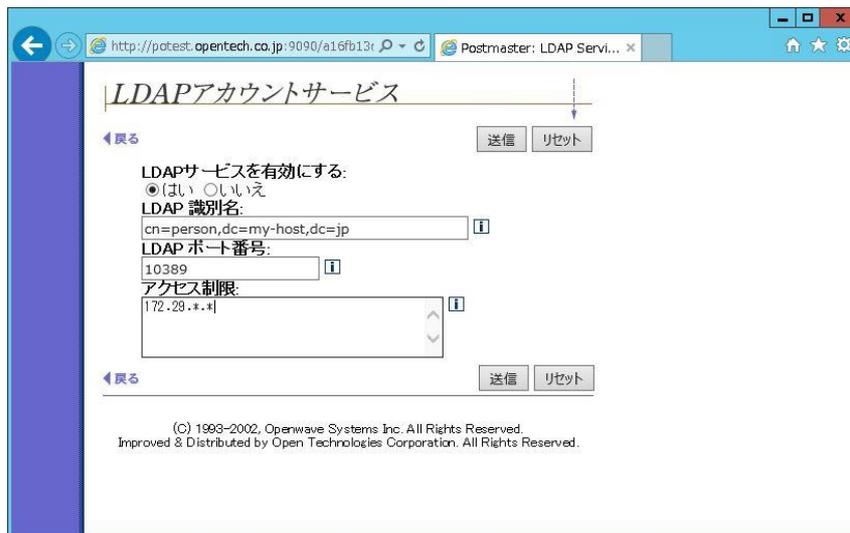
InterMail Post.Office Advanced Edition 日本語版をご利用になっている方は、Post.Office と WebEdge を連携させることができます。Post.Office 上に登録されたすべてのアカウントユーザとそのメールボックスを連携させることで、WebEdge を Web メールシステムとしてご利用になることが可能になります。

3.2 連携方法

Post.Office ↔ WebEdge 間の連携は、LDAP プロトコルを利用してユーザ情報の共有を行っています。これは、Post.Office 側と WebEdge 側の設定が必要です。

3.2.1. Post.Office 側の設定

Post.Office の管理者画面にて、「システムコンフィグレーション」→「LDAP サービスの設定」で行います。「LDAP アカウントサービス」フォームは次のようになっています。



1. LDAP サービスを有効にする

「はい」を選択します。

2. LDAP 識別名

LDAP ディレクトリはツリー構造のデータベースになっています。ツリー構造データの階層格納構造を特定するための識別子が識別名です。Post.Office と連携する際は、この識別名を使ってユーザ情報を共有します。このフィールドには、以下を設定してください。

```
cn=person,dc=my-host,dc=jp
```

3. LDAP ポート番号

LDAP で通信する際に使用するポート番号を入力します。このフィールドには、以下を設定してください。

```
10389
```

4. アクセス制限

WebEdge を稼働させるサーバの IP アドレスを登録します。Post.Office と WebEdge を同一サーバ上で稼働させている場合でも、IP アドレスの設定は必要です。(localhost に割り当てられている 127.0.0.1 の IP アドレスでは許可されません)

ネットワーク全体からのアクセスを許可する場合は、以下のようにワイルドカード(*)を指定することができます。

```
192.168.2.*
```

！ ご注意！

Post.Office と WebEdge 間で連携を行う場合は、必ず上で指定した LDAP ポート番号による通信が可能になっていないとダメです。(他のサービスで利用している、ポートを閉鎖している等はチェックしておいてください)

3.2.2. WebEdge 側の設定

WebEdge ディレクトリ下の config_mdn ディレクトリにある「mobility.cfg」ファイルの設定項目を変更します。ファイルは、デフォルト値でインストールされたのであれば次の箇所にあります。（ディレクトリやファイルの読み書き許可がない場合は管理者権限で作業します）

・ Windows → C:\WebEdge¥config_mdn ディレクトリ

変更する項目は、次のとおりです。

1. MSG_STORE_SERVER= (Post.Office システムのホスト名または IP アドレス)
Post.Office サーバを指定します。例：MSG_STORE_SERVER=mail.opentech.co.jp
2. SMTPHOST= (Post.Office システムのホスト名または IP アドレス)
Post.Office サーバを指定します。例：SMTPHOST=mail.opentech.co.jp
3. PO_AUTH_REQUIRED=true
“true” を設定します。
4. GET_PO_USERINFO=true
“true” を設定します。
5. PO_AUTH_PORT=10389
“10389” を設定します。
6. PO_DIRECTORY=cn=person,dc=my-host,dc=jp
“cn=person,dc=my-host,dc=jp” を設定します。

「mobility.cfg」ファイルを変更した場合は、WebEdge の再起動が必要です。

4. WebEdge の Web インタフェース

4.1 管理者インタフェースへのアクセス方法

管理者 Web インタフェースにアクセスすることで、WebEdge のコンフィグレーションを行うことができます。

Windows 環境で管理者 Web インタフェースにアクセスする手順：

1. [スタート] メニューから、WebEdge > Administer WebEdge に進みます。管理者ログインページが表示されます。ページが表示されない場合は、Web ブラウザから、`http://your_server_name:指定したポート番号/` にアクセスします。
2. インストール時に設定した管理者パスワードを入力し、“入力” ボタンをクリックします。

4.2 ユーザインタフェースへのアクセス方法

Windows 環境でユーザインタフェースにアクセスする手順：

1. [スタート] メニューから、WebEdge > User WebEdge に進みます。ユーザーログインページが表示されます。ページが表示されない場合は、Web ブラウザから、`http://your_server_name:指定したポート番号/` にアクセスします。
2. 次の情報を入力します。
 - ・ Post.Office アカountの POP3/IMAP4 ログイン名
 - ・ パスワード
3. “入力” ボタンをクリックします。

5 WebEdge サーバの起動と停止

5.1 起動方法

Windows 環境で WebEdge サーバを起動する手順：

- ・ [スタート] メニューから、WebEdge > Start WebEdge に進みます。

5.2 停止方法

サーバを停止すると、次の状態になります。

- ・ プロセスは、ただちに終了します。
- ・ サーバと接続している Web ブラウザは、ただちに切断されます。
- ・ データベースは、サーバの再起動時にインデックスを再構築します。

Windows 環境で WebEdge サーバを停止する手順：

- ・ [スタート] メニューから、WebEdge > Stop WebEdge に進みます。

6 WebEdge サーバをアンインストールする方法

Windows 環境で WebEdge をアンインストールする手順：

- ・ [スタート] メニューから、WebEdge > UnInstall WebEdge に進みます。

！ご注意！

アンインストールを行うと、WebEdge ディレクトリごと全てを削除します。

[商標]

Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
本ドキュメントに記載されているその他の製品、ブランド、および会社名は、
それぞれの所有者の商標、登録商標、または職標である場合があります。

(C) 1993-2002, Openwave Systems Inc. All Rights Reserved.

(C) 2002-2017, Open Technologies Corporation. All Rights Reserved.

Improved & Distributed by Open Technologies Corporation.